

宇宙戦略基金2期
衛星データ利用システム実装加速化（B）インド

日本の衛星データ利用システム等開発事業者の インド市場への参入/インド企業との連携支援

株式会社野村総合研究所

Nomura Research Institute Consulting and Solutions India, Pvt. Ltd.

2026年8月



5年間の委託期間を通じて、日本の衛星データシステムに関係するプレーヤーが、インド市場を通じた事業参入・拡大を、効果的かつ継続的に活動できる状態を整える

#

本事業で目指すゴール

1

日本企業が、インドの宇宙市場に参入する、あるいはインドの宇宙関係企業と連携するための、**有望領域・主要なステークホルダーが特定できている**状態。

2

有望領域で活動している日本企業が、**インドの宇宙市場に関心をもつ、あるいは、少なくとも参入可否を判断するために必要な情報を有している**状態。

3

インドの市場に参入している日本企業や政府関係機関が、**本事業終了後も、継続的に事業拡大に取り組めている**状態。

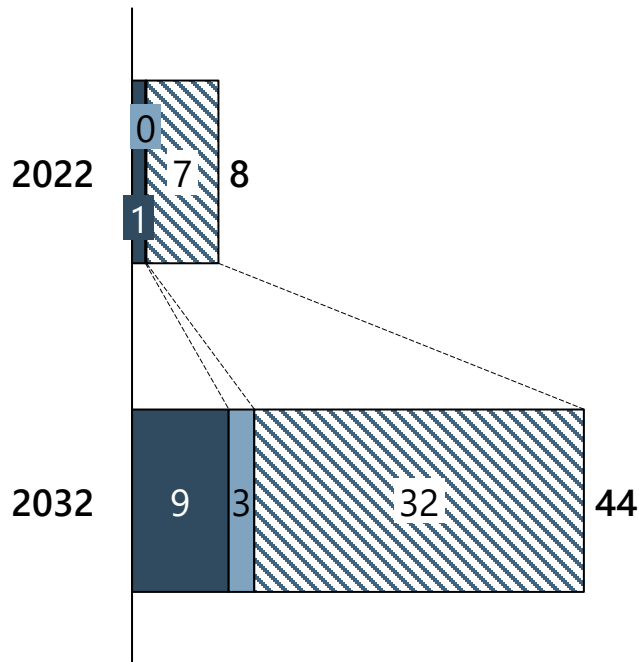
なぜインドか

インドの宇宙産業市場規模は、2033年に440億ドル（≒7兆円）をターゲットとする。 旺盛な国内需要のあるダウンストリーム領域の衛星データシステムが市場を牽引する

■ 日本は2030年代前半に8兆円を目標とする。規模は近いものがあるが、ダウンストリーム・内需の厚さが大きい。

インドの宇宙産業市場規模（大分類別）

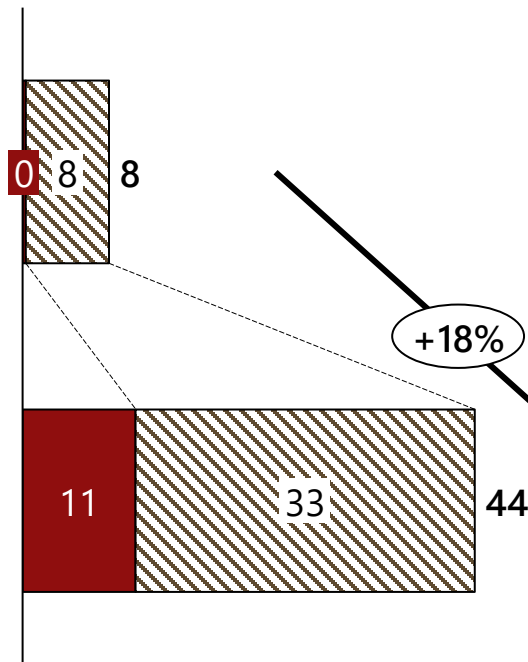
Bn. USD



Upstream Midstream Downstream

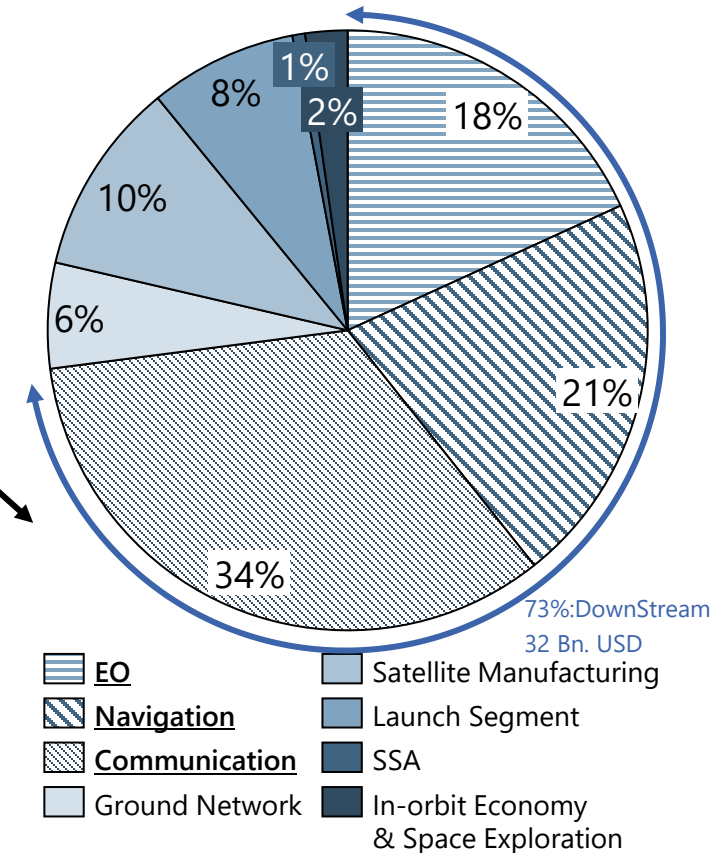
インドの宇宙産業市場規模（内需・外需別）

Bn. USD



Export Domestic Market

分野別の構成割合（Total 44 Bn USD, 2032年）

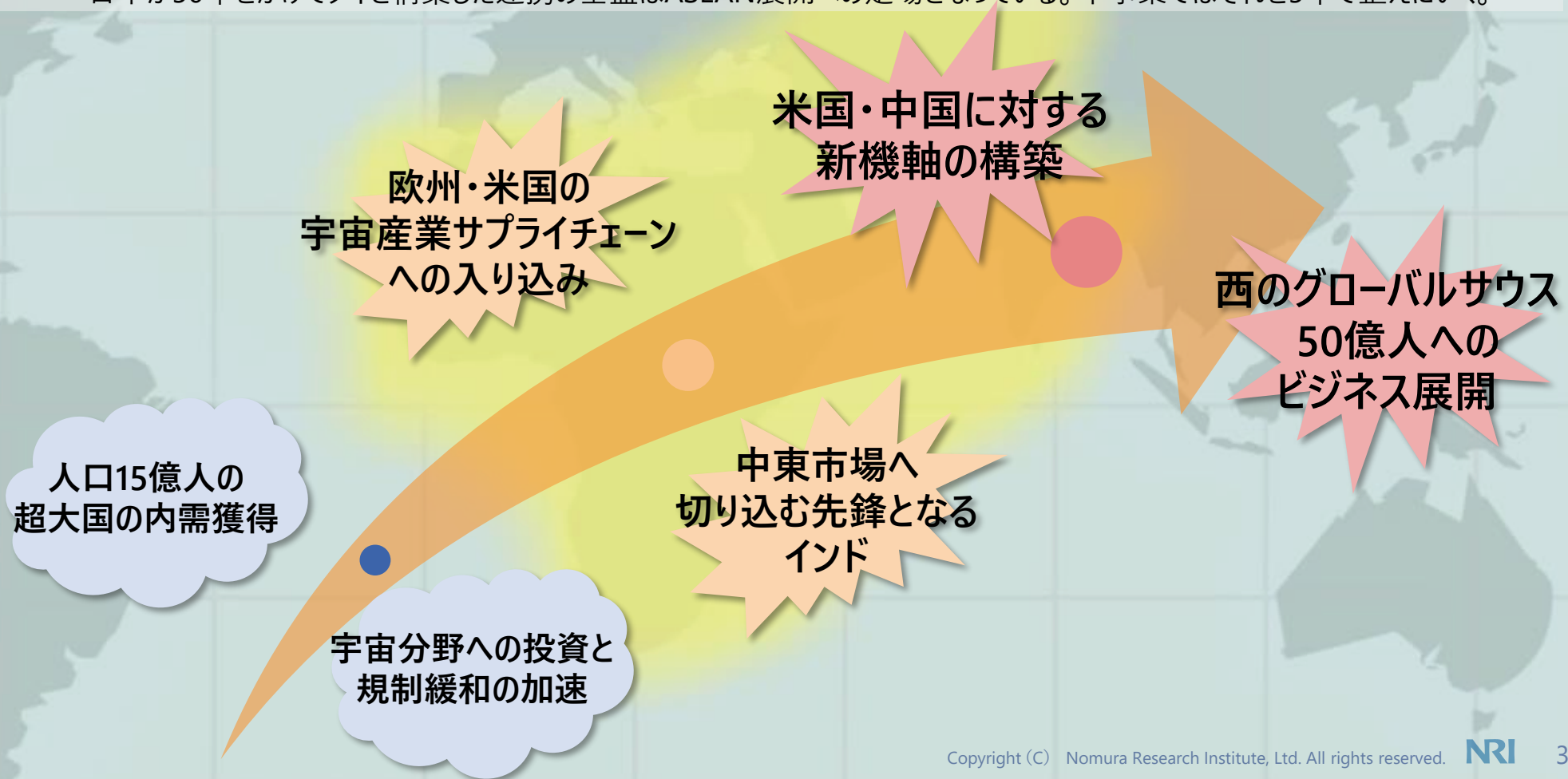


なぜインドか

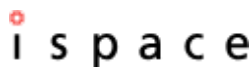
人口10億人の超大国であるインドの内需獲得のみならず、経済安全保障の楔として、そして、中東とグローバルサウス諸国へ入り込むウインドウとして、日印の連携を強化していく

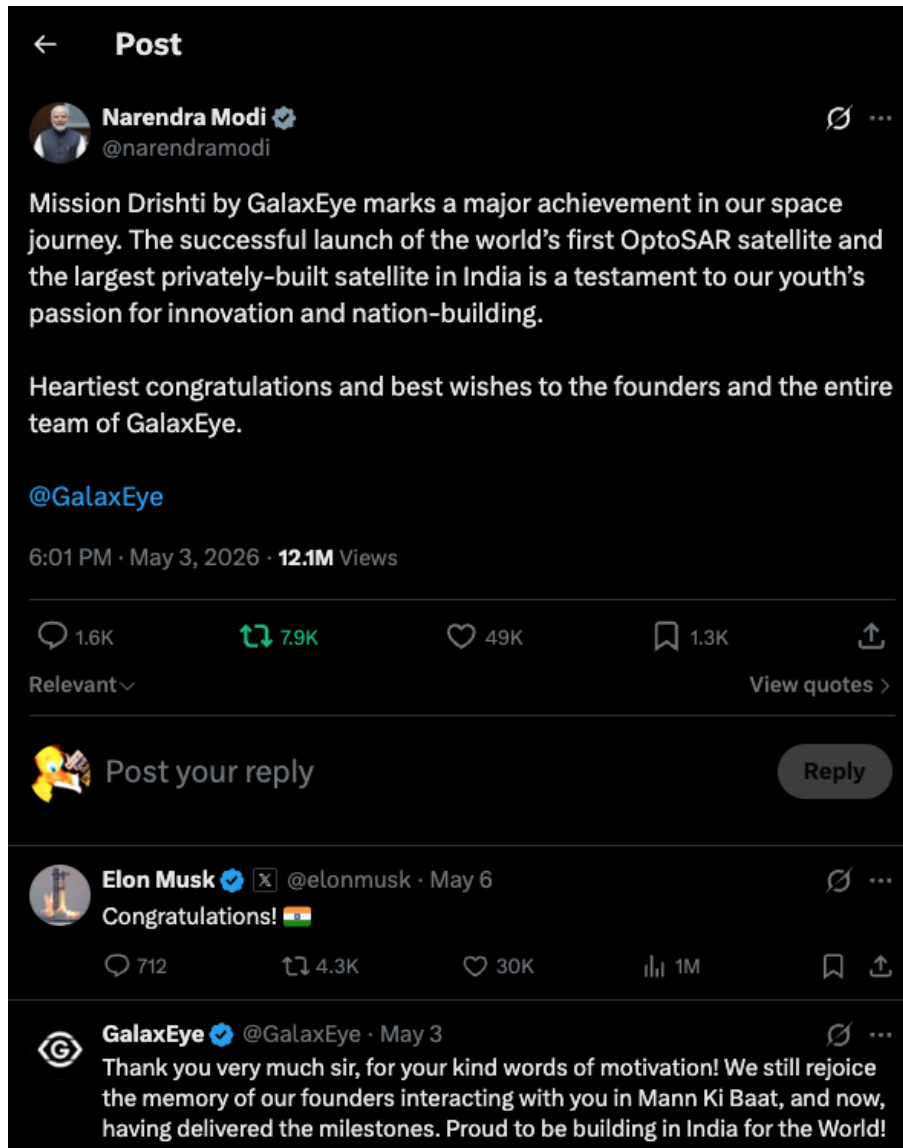
■ インドでは宇宙分野への投資拡大と規制緩和が進み、民間の参画また外資との連携を促進している時期にある。

- インドは膨大な内需の獲得のみならず、欧米、中東、そしてグローバルサウスへの展開における足掛かりとなる。
- 日本が50年をかけてタイと構築した連携の基盤はASEAN展開への足場となっている。本事業ではそれを5年で整えにいく。



先行する日本のプレーヤーはインド企業とのパートナーシップ（MOU）の締結を実現。 相互の強みを生かしたシナジーのストーリーを描き、ターゲット領域を明確にしていく

テーマ	連携年	インド企業	日本企業	相互連携の狙い	
				インド	日本
防衛 (EO・SSA)	2024	 Bharat Electronics	 Mitsubishi Electric	防衛用電子機器の製造に強い政府系企業。防衛分野のケイパビリティの拡大を意図。	インド防衛エレクトロニクス力を生かし、日本技術と連携して国内外向け装備品供給能力を強化。
月面探査	2024	 HEX20	 ispace	低コスト小型衛星技術を月周回ミッションへ展開し、新市場開拓と顧客基盤拡大を狙う。	月着陸船・輸送能力を活用し、月周回向け小型衛星輸送サービスの商用化と需要創出を意図。
軌道上サービス (デブリ除去)	2024	 Bellatrix Aerospace	 Digantara	 Astroscale	- インド市場で軌道上サービス（デブリ除去）を提供し、アジア太平洋での事業基盤を拡大。 - 推進技術と宇宙機能を軌道サービスへ応用し、国際展開と日本市場参入を加速。
	2024	 InspeCity	 Orbital Lasers	レーザー技術と自社の軌道上サービスプラットフォームを統合し、衛星寿命延長・軌道サービス市場を拡大。	先端宇宙用レーザーの商用化促進と、インド企業との協業で国際市場での軌道上サービス展開基盤を強化。
地上局	2025	 Dhruva	 Infostellar	自社の地上局を国際ネットワークに統合し、グローバル事業機会を強化。	世界規模の地上局カバレッジと衛星運用サービスを拡充。



インドの宇宙関係機関と日印連携にむけた入り込み

認知・リーチを広げる活動として官民連携セッション等の場を活用。インドも日本も自分たちのプロダクトを売りたいなか、そこでさらに一步を進める“アライメント”の役割を担っていく



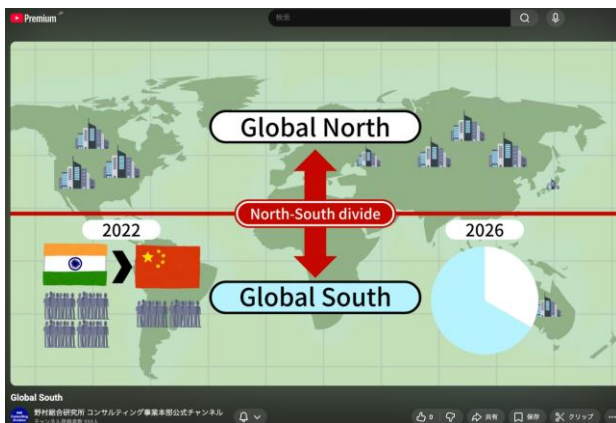
インドの宇宙関係機関と日印連携にむけた入り込み

インドは「ビジネスができる気がしない」、「一度痛い目をみている」という声のある難しい市場。市場の規模の魅力のみでなく、インドの市場や慣習の要点の理解を促していく

■ 日本の宇宙関係企業のインド進出の機運を高める活動を実施。市場や慣習を整理し事業者に共有、理解を促していく。

- ある程度の調査は日系企業をクライアントとしたNRIインドのビジネスのなかで把握済み。

■ 情報発信・啓蒙活動としては、NRIのオウンドメディアをはじめ、多様な情報発信の機会にインド市場へ認知を拡大。



Source: NRIの展開するオウンドメディア

インドを起点とした「西のグローバルサウス」展開戦略

NRI インド インベストメント・ストラテジー・コンサルティング部 シニアパートナー兼部長 サニー・ゴエル (Sunny Goel)
NRI インド 取締役社長 佐竹 繁春

1 はじめに

「グローバルサウス」とは、アジア、アフリカ、中南米など、新興国・途上国を包括する概念であり、その多くは南半球に位置している。この地域群は急速に経済的な存在感を高めており、すでに中国の経済規模を上回り、2040年には米国をも超えると予測される(図表1)。その中でも、特に注目すべきは、インド以西のグローバルサウス地域であり、40年時点でグローバルサウス全体のGDPの過半を占めると予測される。

本稿では、このような成長著しいグローバルサウスの中でも、インドと地理的・経済的に近接する中東・アフリカ地域に焦点を当てる。インドと中東・アフリカには、共通の社会課題や消費嗜好(しこう)、また物流面での親和性等が見られ、戦略的な拠点としてインドを活用する意義は極めて大きい。すでに複数のグローバル企業がこのモデルの有効性を検証しつつあり、その知見は本地域への市場参入および

組織構築の指針となる。

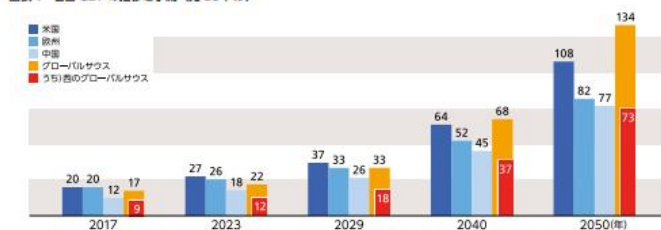
2 中東・アフリカ市場のポテンシャル

中東・アフリカ地域は、しばしば政情不安定、民主的制度の未成熟、国際紛争といった懸念と結びつけて語られることが多い。しかしながら、同地域には未開拓のビジネスチャンスが豊富に存在する。その主因は、域内の所得水準の上昇に伴う消費力の拡大にある。

図表2は、家計所得の分布を示したものである。これを見ると、中東・アフリカ地域の主要国の家計所得分布の特徴は二分している。産油国を中心に高所得層が存在しており、同地域が幅広い製品・サービスに対して高い購買力を有する。一方で、アフリカ諸国においては豊富な中間層が存在する。

これら主要国を含む、統計データの取得が可能な25カ国の所得分布を統合し、インドのそれと比較

図表1 名目GDPの推移と予測(兆USドル)



注) 2023年まで: IMF 実績値。2024～29年: IMF 推計値。2030年以降: IMF および世界銀行の人口データを用いてNRI推計。出所) 国際通貨基金 (IMF) "World Economic Outlook", 世界銀行 "Population estimates and projections" よりNRI作成

NRI Group
48,528人のフォロワー
2ヶ月前・編集済み・👤

Did you know countries across Asia, Africa, and Latin America are driving the world's next growth wave? [Mayuko Taniguchi](#) explains why the Global South is gaining power, economically, politically, and strategically. Watch the full video to see how this shift is transforming global dynamics: https://lnkd.in/e2Kh_Sjq

翻訳を表示



Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

NRI

Join us!

直近では、9月のBangaluru Space Expo2026（9/7-9@Event, 10-11@Tour）にて、日印の企業間マッチングやインドでの日本企業のプレゼンスを高める活動を計画

- 2年に1度の大規模な宇宙産業の展示会。個別マッチングや現地ツアーなど相互理解を深められる機会を設計。
 - さらに、10月はAsian Conference on Remote Sensing（ACRS2026）、11月はIndia International Space Conclave（IISC 2026）12月にはGeoSmartIndia2026と、インドの宇宙産業に関わるイベントが予定されている。





JAPANESE SPACE INDUSTRY

Contacts

rd-india-pr@nri.co.jp